

**令和5年度「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業
地域日本語教育スタートアッププログラム 報告書**

団体名 吉野ヶ里町 （都道府県： 佐賀県 ）

1. 当該地域の情報（令和6年2月現在）

地域の課題	本町の在住外国人数は令和6年2月29日現在で259人と、10年前と比較して約3.5倍に増え、現在も増加傾向にある。しかし、地域に日本語を学ぶ場はこれまで1カ所もなかった。外国人住民の在留資格のうち、半数近くが「技能実習」であり、町内企業において今後さらに外国人の受け入れが増えると予測される。技能実習生はほとんどが受入企業の周辺に居住しており、地域住民と顔を合わせる機会や交流はない。顔の見えない関係であるため、受入企業周辺の自治会から生活ルールについての問い合わせや苦情も少ないが届くようになった。 技能実習以外の在留資格を持つ外国人については町内各地に点在しており、地域における孤立も懸念される。ごみ出しや交通マナーなどの問題や、防災や病院受診に難しさや不安があっても、生活する上で地域住民との関わりや支え合いがほぼないのが課題である。 また、地域住民の外国人住民に対する理解が不十分な現状もあり、文化や宗教、生活習慣の違いなどに理解を深め、国籍に関わらずすべての住民が地域で生活する者として共生していけるように環境を整えていく必要がある。 行政においても、言語面での情報発信が課題となっているが、人的・財政的にも難しい状況である。
在住外国人数 外国人比率	【在住外国人数】259人 【外国人比率】1.6% [R6. 2. 29 現在]
在住外国人の 状況	【主な国籍】[R5. 1. 1 現在] 全19カ国 1位 ベトナム89人 2位 中国24人 3位 ミャンマー20人 4位 インドネシア16人 5位 韓国・朝鮮12人 5位 フィリピン12人 7位 ネパール5人 7位 カンボジア5人 9位 台湾3人 10位 マレーシア2人 【在留資格】[R5. 1. 1 現在] 1位 技能実習85人 2位 特定技能30人 3位 永住者24人 4位 技術 人文知識 国際業務12人 4位 家族滞在12人 6位 日本人の配偶者等8人 6位 特別永住者8人 8位 特定活動5人 9位 介護4人 10位 定住者3人 【滞在年数・在留期間などの状況】 不明
在住外国人の 日本語教育の 現状	これまで町内で在住外国人に対する日本語教室を行う組織や団体はなく、行政においても日本語教育・多文化共生の取り組みは行っていなかった。 地域日本語教育スタートアッププログラム活用直前の令和3年1月に「外国人と日本語での交流会」「日本人向け座学会」を佐賀県国際課と共同で開催し、交流会に33名、座学会に17名が参加。国際交流・多文化共生へ興味・関心を持つ人々との繋がりを得た上でスタートアッププログラム活用を開始した。 スタートアッププログラム2年目の令和4年1月に、初の地域日本語教室を試行。それ以後は、ほぼ月1回のペースで教室を実施している。

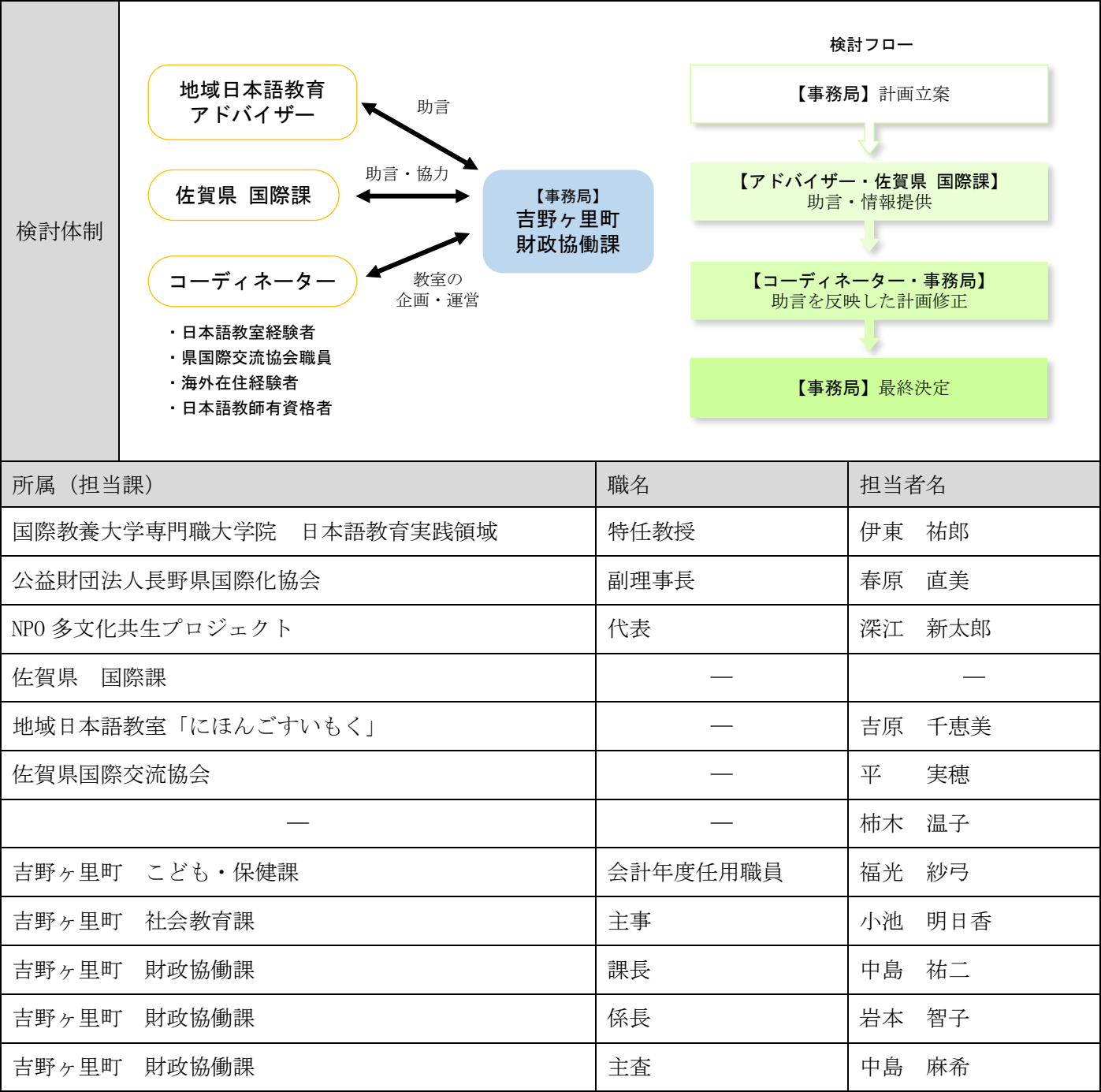
2. 事業の内容

本プログラム 取組年数	3年目
事業の目的	これまで在住外国人が地域で日本語を学習する環境がなかった本町において「地域日本語教室」を設置することは、外国人住民の日本語学習に役立つだけでなく、外国人にとっての安全・安心を確保するセーフティーネットとなり得ること、そして地域住民と外国人住民の交流拠点となり、多文化共生への理解促進にもつながると考えられる。 前述した「外国人住民が生活する上で地域住民との関わりや支え合いがほぼないこと」、「地域住民の外国人住民に対する理解を深め、日本人・外国人に関わらずすべての住民が地

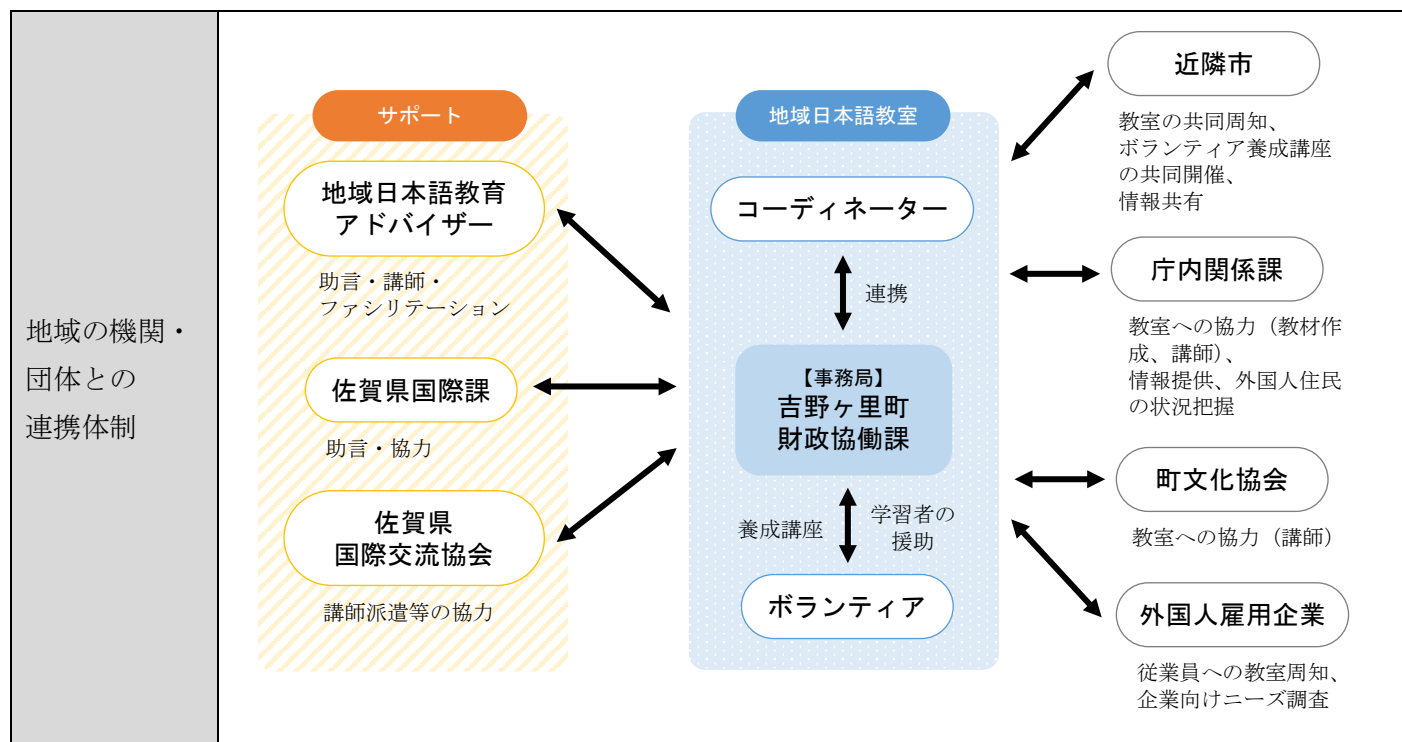
	域で生活する者として共生していけるように環境を整える必要があること」という地域の課題を解決するため、国籍等の背景に関わらずすべての住民が円滑に地域生活を送れるよう、地域日本語教室を活用して相互理解を促す取り組みを行う必要がある。 以上を踏まえ、本町の地域日本語教室では次の3つをコンセプトとして活動することとした。 ○楽しく交流すること ○やさしい日本語が身につくこと ○分け隔てない間柄になること			
事業の概要	(1)地域日本語教室「meet up よしのが里」 月1回の頻度で教室を試行した。 主として日本語教育を実施する中で、外国人住民が地域の日本人と日本語で交流する機会も設け、さらに生活ルールの啓発や異文化理解のための双方向的な情報交換等を行うことで、多文化共生を理解し、推進する環境づくりを進めていった。 教室は毎回異なるテーマを設定し、「防災」「ごみ出し」「病院受診」などの生活に直結する内容や、「書道」「盆踊り」「正月遊び」といった日本文化に触れながら日本語を学ぶものなど多彩な内容で行った。 定期開催することで教室に参加する習慣づけを行い、次第に外国人住民が暮らしの中の困りごとを相談できる関係づくりの模索や、外国人住民が主体的に教室と関わる仕掛けづくりを試行していった。 (2)近隣自治体との連携 (3)ボランティア養成講座 (4)多文化共生に関する講演会（職員研修兼ねる）、生涯学習事業における講義など			
事業の対象期間	令和5年5月～令和6年3月			
前年度の実績 （2年目以降の 団体のみ記載）	R4.8.2 アドバイザー会議（招聘） R4.8.3 職員研修 R4.8.31 日本語教室視察「にほんごすいもく」（佐賀県佐賀市） R4.11.15 みやき町コーディネーター会議視察 R4.11.20 日本語教室視察「日本語ひろば『ちかつとにほんご』」（佐賀県みやき町） R5.1.11 アドバイザー会議（オンライン） R5.1.29 地域日本語教室 R5.1.30 アドバイザー会議（招聘） R5.2.26 地域日本語教室 上記の他、月1回のコーディネーター会議（計6回）、企業アンケート・企業訪問を実施。ホームページやSNS発信・町広報紙掲載による広報活動も実施。			
担当コーディネーター	氏名	所属	職名	担当する役割
	吉原 千恵美	地域日本語教室 「にほんごすいもく」	—	地域日本語教室に関する業務 （学習内容の企画、教材作成、学習者・ボランティアのサポート、振り返り・課題抽出、会場設営・撤収）、学習者の状況・ニーズ把握、関係機関との連絡調整
	平 実穂	佐賀県国際交流協会	—	
	柿木 温子	—	—	
	福光 紗弓	吉野ヶ里町 こども・保健課	会計年度 任用職員	
	小池 明日香	吉野ヶ里町 社会教育課	主事	上記内容及び学習者・ボランティアへの連絡、教室活動記録、在留外国人の状況把握、企業との連携調整、広報活動
	岩本 智子	吉野ヶ里町 財政協働課	係長	
担当アドバイザー	中島 麻希	吉野ヶ里町 財政協働課	主査	
	氏名	所属	職名	継続・新規の別
	伊東 祐郎	国際教養大学専門職大学院 日本語教育実践領域	特任教授	継続 ・新規（3年目）
	春原 直美	公益財団法人長野県国際化協会	副理事長	継続 ・新規（3年目）
	深江 新太郎	NP0 多文化共生プロジェクト	代表	継続 ・新規（3年目）

3. 日本語教室の設置に向けた検討体制

(1) 地域における日本語教育の実施に向けた検討体制



(2) 日本語教室の実施に向けた事業運営体制図



組織・団体・機関名	担当部局	職名	担当者名
国際教養大学専門職大学院 日本語教育実践領域	—	特任教授	伊東 祐郎
公益財団法人長野県国際化協会	—	副理事長	春原 直美
NPO 多文化共生プロジェクト	—	代表	深江 新太郎
佐賀県	国際課	—	—
佐賀県国際交流協会	—	—	—
神埼市	企画課	—	—
外国人雇用企業 12 社	—	—	—
吉野ヶ里町文化協会	—	—	—
吉野ヶ里町	総務課	—	—
吉野ヶ里町	住民課	—	—
吉野ヶ里町	社会教育課	—	—
吉野ヶ里町	こども・保健課	—	—
吉野ヶ里町	財政協働課	課長	中島 祐二
吉野ヶ里町	財政協働課	係長	岩本 智子
吉野ヶ里町	財政協働課	主査	中島 麻希

4. 具体的な取組内容

(1) 年間を通じた取組内容

年月	主な取組内容	コーディネーターの主な活動	アドバイザーの来訪
令和5年 4月	・事業計画の検討・計画書の作成 ・地域日本語教室準備	* 事業計画の検討・計画書の作成（事務局） * 5月の地域日本語教室に向け、庁内関係課（社会体育担当部局）との協議・教材作成（事務局）	
令和5年 5月	・キックオフ会議 令和5年度の事業計画について ・地域日本語教室 「ニュースポーツ体験」 ・コーディネーター会議 ・生涯学習講座準備 ・地域日本語教室準備	* キックオフ会議の資料作成（事務局） ○ 地域日本語教室の運営 ○ 事後振り返り、課題抽出、次回以降の教室内容の企画 * 講座内容の協議（事務局） * 6月の地域日本語教室に向け、庁内関係課（防災担当部局）との協議・教材作成（事務局） * 広報誌コラム掲載（事務局） * ポスター掲示、チラシ配架、SNS・メールマガジン配信（事務局） * 企業への教室案内（事務局）	・キックオフ会議 伊東氏、春原氏、深江氏（オンライン）
令和5年 6月	・地域日本語教室 「災害に備えよう」 ・コーディネーター会議 ・教室視察：佐賀県神埼市 ・地域日本語教室準備	○ 地域日本語教室の運営 ○ 事後振り返り、課題抽出、次回以降の教室内容の企画 * 教室視察：佐賀県神埼市（事務局） * 7月の地域日本語教室に向けた教材作成（事務局） * 広報誌コラム掲載（事務局） * ポスター掲示、チラシ配架、SNS・メールマガジン配信（事務局） * 企業への教室案内（事務局）	・深江氏による助言 令和5年度の事業計画に対して（オンライン）
令和5年 7月	・地域日本語教室 「料理を頼もう」 ・コーディネーター会議 ・生涯学習講座 「外国人の声を聞いてみよう」 ・ワークショップ準備 ・近隣市との連携準備 ・地域日本語教室準備	○ 地域日本語教室の運営 ○ 事後振り返り、課題抽出、次回以降の教室内容の企画 * 講座内容の最終打合せ、資料準備、開催案内等（事務局） * ワークショップ内容の協議・資料準備（事務局） * 近隣市との連携協議（事務局） * 8月の地域日本語教室に向けた文化協会関係者との協議・教材作成（事務局） * 広報誌コラム掲載（事務局） * ポスター掲示、チラシ配架、SNS・メールマガジン配信（事務局） * 企業への教室案内（事務局）	・生涯学習講座「外国人の声を聞いてみよう」 「やさしい日本語」を使った外国人とのコミュニケーション方法等について講義 ★深江氏

令和5年 8月	・住民向けワークショップ「サードプレイスとしての交流広場をつくろう」 ・地域日本語教室「盆踊りを踊ろう」 ・コーディネーター会議 ・地域日本語教室準備	○ワークショップの運営 ○地域日本語教室の運営 ○事後振り返り、課題抽出、次回以降の教室内容の企画 ○9月の地域日本語教室に向けた佐賀県国際課との協議 ○10月の地域日本語教室に向けた佐賀県国際課との協議 *広報誌コラム掲載（事務局） *ポスター掲示、チラシ配架、SNS・メールマガジン配信（事務局） *企業への教室案内（事務局）	・住民向けワークショップ「サードプレイスとしての交流広場をつくろう」 - 多文化共生への理解促進及び地域日本語教室ボランティア養成講座として実施 ★深江氏
令和5年 9月	・アドバイザー会議（1回目） ・地域日本語教室「病院へ行こう」 ・地域日本語教室準備	*会議資料作成（事務局） ○地域日本語教室の運営 *11月の地域日本語教室に向けた書道指導者との協議（事務局） *広報誌コラム掲載（事務局） *ポスター掲示、チラシ配架、SNS・メールマガジン配信（事務局） *企業への教室案内（事務局）	・アドバイザー会議（1回目） - 教室運営の中間報告、課題検証、助言を受けての令和5年度事業計画の見直し等 ★伊東氏、★春原氏、★深江氏
令和5年 10月	・地域日本語教室「日本語でミニゲーム」 ・コーディネーター会議 ・ボランティア養成講座準備 ・地域日本語教室準備	○地域日本語教室の運営 ○事後振り返り、課題抽出、次回以降の教室内容の企画 *ボランティア養成講座開催に向けた近隣市との協議・広報活動（事務局） ○11月の地域日本語教室に向けた資料準備 *広報誌コラム掲載（事務局） *ポスター掲示、チラシ配架、SNS・メールマガジン配信（事務局） *企業への教室案内（事務局）	
令和5年 11月	・地域日本語教室「筆で字を書こう」 ・コーディネーター会議 ・宮崎県小林市への視察 ・ボランティア養成講座 ・地域日本語教室準備	○地域日本語教室の運営 ○事後振り返り、課題抽出、次回以降の教室内容の企画 ○視察（教室運営方法などの情報共有）、視察用資料の準備 ○養成講座の資料準備 ○養成講座の運営 *12月の地域日本語教室に向けた教材作成（事務局） *広報誌コラム掲載（事務局） *ポスター掲示、チラシ配架、SNS・メールマガジン配信（事務局） *企業への教室案内（事務局）	

令和 5 年 12 月	・地域日本語教室「みんなの「冬」を描こう」 ・コーディネーター会議 ・地域日本語教室準備	○地域日本語教室の運営 ※ 8 月ワークショップでの企画内容を基に開催。 ○事後振り返り、課題抽出、次回以降の教室内容の企画 ○ 1 月の地域日本語教室に向けた教材作成 * 広報誌コラム掲載（事務局） * ポスター掲示、チラシ配架、SNS・メールマガジン配信（事務局） * 企業への教室案内（事務局）	
令和 6 年 1 月	・地域日本語教室「正月の遊び」 ・コーディネーター会議 ・多文化共生講演会準備 ・地域日本語教室準備	○地域日本語教室の運営 ○事後振り返り、課題抽出、次回以降の教室内容の企画 * 多文化共生講演会に向けた協議、資料作成、広報活動（事務局） * 2 月の地域日本語教室に向けた教材作成（事務局） * 広報誌コラム掲載（事務局） * ポスター掲示、チラシ配架、SNS・メールマガジン配信（事務局） * 企業への教室案内（事務局）	
令和 6 年 2 月	・多文化共生講演会「吉野ヶ里町の多文化共生の町創りーグローバル化と地域力の融合をめざしてー」 ・アドバイザー会議（2 回目） ・地域日本語教室「鬼は外、福は内」 ・コーディネーター会議	○講演会の運営 * 会議資料作成（事務局） ○地域日本語教室の運営 ○年間の振り返り、課題抽出、来年度の地域日本語教室運営に向けた協議 * 広報誌コラム掲載（事務局）	・吉野ヶ里町地域日本語教室の視察・助言 人を集める空間づくり、効率的な教室運営等について ★伊東氏、★春原氏、★深江氏 ・多文化共生講演会 外国人住民の現状、多文化共生への課題、地域日本語教室の意義等について講演 ★伊東氏、★春原氏、★深江氏 ・アドバイザー会議（2 回目） 年間実績報告、来年度以降の持続可能な教室運営への助言等 ★伊東氏、★春原氏、★深江氏
令和 6 年 3 月	・コーディネーター会議	○来年度の地域日本語教室運営に向けた協議 * 広報誌コラム掲載（事務局）	

(2) 立ち上げた日本語教室の詳細

教室の名称		meet üp よしのが ^り 里					
外国人参加者について		[国籍] ベトナム 10 人 タイ 5 人 インドネシア 4 人 フィリピン 4 人 フィジー 3 人 中国 2 人 カンボジア 2 人 台湾 1 人 ミャンマー 1 人 マレーシア 1 人 パキスタン 1 人 ※令和 5 年 1 月～令和 6 年 2 月までの参加者の実人数による数値。 [属性] 技能実習生や留学生、外国人世帯など					
参加者数 (内外国人数)		受講者（外国人学習者） 34 名 支援者（ボランティア） 60 名					
開催時間数		総時間 17 時間			内訳 1.5 時間 × 9 回、3.5 時間 × 1 回		
目標		○外国人学習者が地域の日本人との交流を通して楽しみながら日本語を学ぶとともに、外国人が主体性をもって取り組める内容を構築し、彼らにとって「また行きたい」と思える教室を作る。 ○日本で暮らす上での知識やルール、文化に触れながら日本語を学べる学習プランを組み立てる。 ○外国人学習者との交流を深め、困りごとがあった際に気軽に相談できる「セーフティーネット」としての心の拠り所を目指す。 （一部、支援者向けにやさしい日本語のレクチャーを含む）					
実施内容							
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	内容	授業概要	支援者数
1	2023 年 5 月 27 日(土) 8:30～12:00	3.5	三田川小学校 体育館、グラウンド	4	ニュース ポーツ体験	社会教育部局主催イベントとのコラボ企画。 ・やさしい日本語とは（クイズ） ・競技ルールの説明（やさしい日本語） ・競技 3 種の体験を通した日本人との交流	ボランティア 1 名
2	2023 年 6 月 11 日(日) 13:30～15:00	1.5	吉野ヶ里公園 駅コミュニティーホール	9	災害に備えよう	・アイスブレイク、自己紹介 ・やさしい日本語での防災の説明 ・地域住民と協力しながらの避難ルート検討 ・やさしい日本語版防災ガイドブックの配布	ボランティア 8 名
3	2023 年 7 月 9 日(日) 13:30～15:00	1.5	吉野ヶ里公園 駅コミュニティーホール	4	料理を頼もう	・アイスブレイク、自己紹介 ・やさしい日本語とは（クイズ） ・レストランやファストフード店等での注文時の表現 ・スクリプトを用いた会話練習	ボランティア 12 名
4	2023 年 8 月 6 日(日) 13:30～15:00	1.5	吉野ヶ里町中央公民館	2	盆踊りを踊ろう	・自己紹介 ・やさしい日本語とは（クイズ） ・単語カードを用いた振りつけレクチャー ・各国の祭りについて文化紹介	ボランティア 10 名
5	2023 年 9 月 10 日(日) 13:30～15:00	1.5	吉野ヶ里公園 駅コミュニティーホール	8	病院へ行こう	・自己紹介 ・やさしい日本語とは（クイズ） ・体の部位と、対応する病院の説明 ・スクリプトを用いた受診時の会話練習	ボランティア 3 名

						・各国の通院事情等の紹介	
6	2023 年 10 月 1 日(日) 13:30～15:00	1.5	吉野ヶ里公園 駅コミュニテ ィーホール	10	日本語で ミニゲー ム	佐賀県国際課協力による実施。 ・自己紹介 ・やさしい日本語とは (クイズ) ・ジェスチャーゲーム ・絵しりとり ・アンケート調査	ボランティア 5 名
7	2023 年 11 月 5 日(日) 13:30～15:00	1.5	吉野ヶ里公園 駅コミュニテ ィーホール	7	筆で字を 書こう	書道作品を制作し、作品は町の文 化祭で教室活動紹介とともに展 示。 ・自己紹介 ・やさしい日本語とは (クイズ) ・書道作品の制作・発表 ・書いた文字の説明 ・フリートークタイム	ボランティア 15 名
8	2023 年 12 月 3 日(日) 13:30～15:00	1.5	吉野ヶ里公園 駅コミュニテ ィーホール	1	みんなの 「冬」を 描こう	折り紙、切り絵などを用いて冬を モチーフとしたアート作品を参加 者全員で合作。 ・自己紹介 ・教室活動で使う動詞、名詞の学習 ・作品の制作・発表 ・フリートークタイム ・アンケート調査	ボランティア 6 名
9	2024 年 1 月 14 日(日) 13:30～15:00	1.5	吉野ヶ里公園 駅コミュニテ ィーホール	4	正月の遊 び	小学生向けのことばすごろくをア レンジし、ゲームを通して日本語 学習。 ・自己紹介 ・教室活動で使う動詞、名詞の学習 ・すごろく遊びを通じた学習 ・フリートークタイム ・アンケート調査	ボランティア 3 名
10	2024 年 2 月 4 日(日) 13:30～15:00	1.5	吉野ヶ里公園 駅コミュニテ ィーホール	2	鬼は外、 福は内	日本の行事「節分」を通じた日本語 学習と文化交流。 ・自己紹介 ・日本と外国の文化についての教 え合い、発表 ・教室活動についてのワークショ ップ (今後やってみたいこと) ・アンケート調査	ボランティア 6 名

【主な活動】



「ニュースポーツ体験」(表 1)で、チームメイトの好プレーに喜び合う外国人学習者 (中央) と日本人の様子



「病院へ行こう」(表 5)で、コーディネーター (左) による補助を受けながら会話練習を行う外国人学習者の様子



「筆で字を書こう」(表 7)で、書道家によるお手本を見ながら、自分の好きな言葉を書く外国人学習者 (左) の様子

教室の立ち上げに係る問題とその対応策	① 問題 対応策	参加人数が安定しない、リピート率が低い ・参加歴のある人へメールマガジンを配信 ・参加者が主体的に教室に関わる仕組みの構築（教室の後片付けを皆で一緒に行う、参加者に教室でやりたいことを募る等） ・教室終了後フリートークタイムの設置（満足するまで話せる機会の提供） ・日本語ボランティアの養成 ・（技能実習生等の場合）雇用企業から参加呼び掛けを依頼
	② 問題 対応策	町内の在住外国人の参加が少ない ・（技能実習生等の場合）雇用企業から参加呼び掛けを依頼 ・外国人住民の居住先へのチラシポスティング ・町の子育て支援施設を利用する外国人母子への呼び掛け
	③ 問題 対応策	学習満足度が低い ・教室活動で使う名詞・動詞・助詞などの学習+実践練習 ・アンケート調査の実施 ・自国の文化などを日本語で伝える実践練習 ・「やさしい日本語」のみにこだわらない（世間一般に浸透している言葉の学習）

（３）その他関連する取組

取組名称	実施期間	内容
コーディネーター会議	令和５年５月～ 令和６年３月（１０回） 主に毎月第２水曜日 15:00～17:00	月１回コーディネーターが集い、地域日本語教室の企画・運営のための協議や、教室実施後の振り返り・課題抽出、事業計画の随時見直し等を行う。 特に振り返りでは、必ず「良かった点」「反省点」どちらも洗い出し、継続・改善すべき項目を全員で共有することができた。 年度末には１年間の振り返りを実施し、来年度に向けた教室運営方針の検討も行った。
アドバイザー会議	① 令和５年９月１日 9:30～12:00（２．５時間） ② 令和６年２月５日 13:00～14:30（１．５時間）	地域日本語教室の実施方針・内容、多文化共生への理解促進のための取り組み方針などについて助言・情報提供をもらうため、地域日本語教育アドバイザーを招聘し、指導を受けた。 １回目：外国人雇用企業との関係構築、地域日本語教室の方針設定、教室内容に関する他市町村事例等 ２回目：今年度の教室実施状況報告、来年度の教室運営に関する課題への助言、持続可能な教室運営のための実施主体の検討等
近隣自治体（佐賀県神埼市）との連携	令和５年７月～	学習者やボランティア確保及び広域的な教室参加機会の拡大を図るため、近隣自治体とも連携し、互いの教室について広報活動を行ったり、ボランティア養成講座の共同開催などに取り組んだ。 また、定期的な情報共有等も行っている。
ボランティア養成講座	令和５年１１月１９日 13:30～15:00（１．５時間） ※共催の神埼市では 令和５年１１月３日 10:00～11:30（１．５時間）	多文化共生に興味・関心のある人々に地域日本語教室の日本語ボランティアとなってもらうため、佐賀県国際協会派遣の講師による養成講座を開催した。 隣接する神埼市と共同し、神埼市で１１月３日、吉野ヶ里町で１１月１９日に同じ内容で開催。互いの広報紙・ホームページで告知の他、チラシを全戸配布して広報した。 また、居住地制限は設けず、どちらの市民・町民でも好きな日程・場所の方に参加できるようにした結果、神埼市で２１名、吉野ヶ里町で１１名が参加した。 内容：①両市町の外国人の現状 ②地域日本語教室、多文化共生とは ③やさしい日本語を学ぼう

生涯学習講座「外国人の声を聞いてみよう」	令和5年7月13日 10:00～11:30（1.5時間）	本町の生涯学習事業「ふれあい大学」の一講座として実施。外国人とのコミュニケーション方法について日本人に伝えることで、多文化共生意識の醸成・やさしい日本語によるコミュニケーションの啓発・ボランティア人材の発掘に繋げる目的で開催した。 本町における外国人の現状等も交えながら講義を行ったことで、「外国人が共に町に住んでいる」「日本語でも話せる」ということが多くの人に伝わった。 （担当：地域日本語教育アドバイザー・深江氏）
住民向けワークショップ「サードプレイスとしての交流広場をつくらう」	令和5年8月5日 13:30～15:00（1.5時間）	外国人と日本人が共に生きるための居場所（サードプレイス）をつくるためには何が必要なのかを、日本人が考えるワークショップを開催した。 深江氏による講義の他、外国人と日本人が共に楽しく過ごせるような地域日本語教室の企画を考える時間を設け、グループごとに発表を行った。 （担当：地域日本語教育アドバイザー・深江氏）
多文化共生に関する講演会「吉野ヶ里町の多文化共生の町創りーグローバル化と地域力の融合をめざしてー」	令和6年2月5日 10:00～11:30（1.5時間）	一般市民や自治会長、民生委員、町議会議員、職員を対象に、多文化共生に対する意識醸成を目的として開催（職員研修を兼ねる）。 日本全体での外国人受け入れの現状をはじめ、グローバル化によって起こる社会変容、その中で地域日本語教室が果たす役割などについて講演を行った。 （担当：地域日本語教育アドバイザー・伊東氏）
先進地視察（宮崎県小林市）	令和5年11月15日 13:00～16:30（3.5時間）	同じく地域日本語教育スタートアッププログラム実施団体であり、令和5年度から自走による教室運営を始めた宮崎県小林市を視察。 2種類のコーディネートによる役割分担や、サポーター養成方法、企業との連携・距離感、教室の実施方針や企画内容、自走を行うための取り組みなどについて情報を共有した。
地域日本語教室に関する広報活動	通年	ポスター掲示やチラシ配布（ポスティングも）、Instagram投稿、参加歴のある人へのメールマガジン配信、ホームページ掲載、広報紙への連載コーナー掲載等

【主な活動】



「ボランティア養成講座」で、やさしい日本語で互いに自己紹介を行うグループワークの様子



「多文化共生を考える講演会」で、伊東氏による講義を聞く市民の様子



地域日本語教室のチラシ

5. 今年度事業全体について

進捗状況	スタートアッププログラムの最終年度となる3年目は、自走に向けて教室を安定して運営していくため、月1回の定期開催を試行しながら、持続可能な教室のための課題点を洗い出した。その結果、参加者が主体的に関わることによる「自分ごと」としての教室づくりや、今後持続可能な教室を運営するために市内・町内における多文化共生意識の醸成の必要性を認識した他、学習満足度向上のための学習プランの模索に取り組むことができた。 また、近隣自治体との連携により、外国人学習者や日本語ボランティアが市町の垣根を超えて広域的に活動できる機会を得ることができるようになり、教室間の情報共有などもスムーズに行えるようになった。 また、ボランティア人材確保のための養成講座も開催したことで、市民の多文化共生意識の向上につながっただけでなく、講座参加者の中から教室へ安定的に参加してくれる人材も新たに生まれている。
事業推進にあたり 問題点と対応策	問 題 企業や自治会等との連携不足。日本語教育・地域での支え合いの必要性や、外国人従業員のQOLに対する認識向上への課題。 対応策 ・外国人との共生について、企業に助言をもらいながら主体的に関わってもらえるよう巻き込んでいく ・企業向け出前講座（ごみ出し、交通ルールなどをレクチャー） ・自治会長との情報共有の場を定期的に設ける その他の問題点・対応策は「教室の立ち上げに係る問題とその対応策」を参照。
成果	・地域日本語教室の試行を毎月1回実施する中で、教育内容の充実、参加外国人の満足度を向上させる仕掛けの導入などの他、外国人の意見収集・多文化共生の啓発を行うことができた。 ・ボランティア養成講座を実施し、外国人との関わりに興味を持つ人々を発掘することができた。講座参加者から教室参加に移行する人もあり、地域日本語教室で外国人のコミュニケーションをサポートしてもらうことに繋がった。 ・高齢者向け講座を実施し、普段外国人と関わる機会の少ない地域住民に、町に暮らす外国人の現状や多文化共生の啓発を行うことができた。 ・視察により、先進地ならではの効率的・効果的な取り組み方を教わることができ、今後の教室運営のヒントを多く得ることができた。 ・近隣自治体で、同じくスタートアッププログラム実施団体である神崎市と連携し、それぞれの教室案内やボランティア養成講座を共催することができた。
地域の関係者との 連携による効果	・外国人従業員への教室参加案内依頼を企業へ継続的に実施したことで、企業を通して教室への参加申し込みに繋がった。また、担当者から教室の様子に興味を示す声や、案内チラシへの言語追加依頼などもあった。 ・本町の文化協会を通して、盆踊りなどをレクチャーする講師を複数人派遣してもらうことができた。また、文化協会との繋がりができたことにより、町の文化祭へ外国人学習者の書道作品を展示する機会を得て、展示を通して観覧者に地域日本語教室の取り組みを知ってもらうことができた。
コーディネーターの 主な活動	① 教室の運営方針・運営体制の検討(40H) ② 学習プラン・教室内容企画の検討(25H) ③ 教室で使用する教材作成(30H) ④ 日本語教室の開設及び運営(40H) ⑤ 参加者募集のための広報物作成・広報活動（企業訪問含む）(40H) ⑥ ボランティア人材育成のための企画・調整・資料作成・講座運営(10H) ⑦ 講演会・ワークショップ等の資料作成・広報・運営(10H)

アドバイザーの 主な助言	○ニーズ調査は関係づくりの後に行う ・一足飛びに外国人にアンケートを取るのは×。 ・①企業の姿勢を探る ②企業と関係を作る ③質問する（対面推奨。母国語が良い） ○市民協働の教室づくりを行う ・参加する外国人にも役割があると、教室が生きがいを感じられる場になる。 ・後片付けなども全員でワイワイとやるなど、外国人と日本人の間の風通しを良くする。 ○「日本語教室＝住みよいまちづくり」である ・日本語教室では「日本語をどう教えるか」だけではなく、外国人と対等に接したり、差別を無くしたり、町ですれ違ったら挨拶するような住みよいまちづくりが究極の目的。 ○「また来たい」教室づくりは市民が考えるべき ・共生の場をつくるには、参加者と一緒に考え、アイデアを教室に反映するべき。 ・運営側（吉野ヶ里町）がやりたいことをやっているだけでは、よほど内容が面白くないと失敗する。 ○協議会を設立していろいろな人を巻き込む ・学校関係者や自治会、一般公募の住民なども交えて「多文化共生推進協議会」を開き、市が提示した教室の在り方について意見をもらっている自治体もある。 ○外国人がその人らしく生きるための教室にする ・外国人のニーズを掴むよりも、「ニーズを生み出す」必要がある。 ・日常生活の中ではっきりとした「困りごと」は起こりにくい、言語化できないモヤモヤは感じているはず。 ・「その人らしく、楽しく生きられているか」という視点が度外視されるため、困りごととして認知されない。 ・「お金を稼ぐ」とことと「生きる糧を得る」とことは違う。人としての喜びが人生には必要。
今後の課題	① 多文化共生に対する意識醸成 ・地域住民（自治会）、職員、学校関係者、企業などあらゆる分野の人々への「多文化共生マインド」醸成。 ② 地域における日本語教室に関わる人材の発掘 ・安定的な教室運営を行うために、コーディネーターやボランティアなどの人材が必要。 ・教室の核を担う人材の発掘には、求める人物像を明確にする必要がある。 ③ 外国人のニーズ把握 ・教室づくりに反映できる的確な項目・方法を精査したニーズ調査が必要。 ④ 外国人と日本人が共同する教室づくり ・外国人と日本人が、対等な立場で活動できる教室づくり。 ・悩みや困りごと、疑問に思ったことなどを話せる居場所づくり。

今後の予定	(1)今後の日本語教育事業の展開について ① 日本語教室の展開 さらなる参加者確保のため、開催日時等の試行を行い、より参加者が集まりやすい条件を模索する。 参加者が「自分ごと」として教室に主体的に関わって教室への愛着を持ってもらうため、一緒に企画を考える取り組みや、ボランティアの役割について再度整理する。 外国人学習者を支える日本語ボランティアを持続的に確保するため、多文化共生に対する意識醸成に引き続き取り組み、ボランティア養成講座の内容をより充実させて実施する。 感染症の拡大などが今後ある場合に備えて、開催への影響を最小限に抑えるため、オンラインによる教室の試行を行い、課題等を検証する。 ② 日本語教室の実施主体と行政の関与について 現時点では本町が実施主体となって教室運営に取り組んでいく予定だが、担当職員の配置転換等の影響を最小限に留めるため、担当職員以外のコーディネーター主導による教室運営の試行に取り組むほか、運営団体立ち上げ等の方法についても模索を続ける。 ③ 財源の確保について 令和6年度については町の単独予算を確保し、スタートアッププログラムで実施してきた体制と概ね変更のない形で教室を運営できる財源を得た。 しかし、本町には多文化共生を推進していくための根拠となる多文化共生推進計画が無いことや、総合計画の中での位置づけの弱さがあるため、庁内において多文化共生の重要性に対する認識を向上させていくことにより、今後の予算確保に努める。 (2) 今後の予定（取組等） 「今後の課題」で記載した項目を行い、教室の目標を達成することにより、外国人・日本人が共に住みよい町づくりを行っていく。
--------------	--

本件担当： 吉野ヶ里町役場 財政協働課 広報・協働係